

2025年度 文学部聴講生

講義要項

(哲学専攻抜粋)

中央大学 文学部

2025.4 - 2026.3

目次

科目No	専攻	漢字科目名	教員氏名	学期名称	曜日名称	時限名称	教室番号	単位数	ページ番号
E3101	哲学	古代中世西洋哲学史(1)／西洋哲学史(1)	出村 和彦	前期	水	2時限	3352	2	1
E3102	哲学	古代中世西洋哲学史(2)／西洋哲学史(2)	出村 和彦	後期	水	2時限	3352	2	3
E3103	哲学	倫理学概論	出村 和彦	01	火	2時限	3353	4	5
E3104	哲学	倫理学概論(他専攻)	尾留川 方孝	01	金	4時限	3257	4	8
E3105	哲学	科学哲学研究	飯盛 元章	01	火	5時限	3352	4	11
E3106	哲学	哲学講義(1)(11)	出村 和彦	前期	火	1時限	3353	2	14
E3107	哲学	哲学講義(1)(11)	和田 有希子	前期	水	2時限	3251	2	16
E3108	哲学	哲学講義(2)(12)	出村 和彦	後期	火	1時限	3353	2	18
E3109	哲学	哲学講義(2)(12)	和田 有希子	後期	水	2時限	3251	2	20
E3110	哲学	哲学講義(3)(13)	青木 滋之	前期	木	1時限	3253	2	23
E3111	哲学	哲学講義(3)(13)	瀬嶋 貞徳	前期	月	3時限	3158	2	26
E3112	哲学	哲学講義(4)(14)	青木 滋之	後期	木	1時限	3253	2	28
E3113	哲学	哲学講義(4)(14)	瀬嶋 貞徳	後期	月	3時限	3158	2	31
E3114	哲学	哲学講義(7)(17)	大川 真	前期	金	1時限	3252	2	33
E3115	哲学	哲学講義(8)(18)	大川 真	後期	金	1時限	3252	2	36

科目名: 古代中世西洋哲学史(1)／西洋哲学史(1)

担当教員: 出村 和彦

履修年度: 2025 学期: 前期

開講曜日時限: 水2

配当年次: 1年次配当

科目ナンバー: LE-WP1-J103

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:34:1

更新者: AA2435

更新日時: 2025-01-10 17:51:5

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

自己と世界(自然・宇宙)、そしてそれらを超越し、あるいは／かつ、それらに内在する根拠について、古代ギリシア人がどのような思索を展開していったのか、また、その哲学的思索が東西のキリスト教圏においてどのように批判的に継承されていったのか?今年度の哲学史講義は、このような根本的な問いを、地理的、言語的、さらに宗教的にも異なるギリシア、ラテン、アラビア、シリアといった多様な文化圏の交流史を背景として概観しながら、そこに一貫して流れる存在観および倫理観の系譜をたどる試みとして問い直してみたい。前期は古代ギリシア哲学を中心に論じる。

なお、実施方法は、全て面接形式で進める。

科目目的

自己と世界(自然・宇宙)、それらを超越し、あるいは／かつ、それらに内在する根拠について、古代ギリシア人がどのような思索を展開していったのかという根本的な問いを、具体的な哲学史的事例を詳細にたどることによって解明していくことを目的とする。

到達目標

具体的な哲学史的事例を自分なりの言葉で他者に説明できるようになり、さらに自己と世界(自然・宇宙)、それらを超越し、あるいは／かつ、それらに内在する根拠について、古代ギリシア人がどのような思索を展開していったのかという根本的な問いに自分なりの考えがもてるようになることを目標とする。

授業計画と内容

実施方法は、全て対面方式で実施する。

- 第1回 インTRODクシヨN: 古代ギリシア哲学史をどのように学ぶか?
- 第2回 ソクラテス以前の哲学(イオニア学派: 自然学の勃興)
- 第3回 ソクラテス以前の哲学(ヘラクレイトス: 絶えず変転する世界)
- 第4回 ソクラテス以前の哲学(パルメニデス: 存在論の始まり)
- 第5回 ソクラテス以前の哲学(ピタゴラス派: 数的調和の神秘)
- 第6回 ソクラテスの哲学とは何だったのか?
- 第7回 ソクラテスの論駁法とその目的
- 第8回 プラトン: 対話篇とは何か?
- 第9回 プラトン: イデア論とは何か?
- 第10回 プラトンからアリストテレスへ
- 第11回 アリストテレス: カテゴリー論と実体論
- 第12回 アリストテレス: 魂(アニマ)・生命・認識
- 第13回 アリストテレス: 倫理学と政治学
- 第14回 前期のまとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	35% 期末レポート 35
平常点	30% manabaの「小テスト」3回 10x3=30
その他	35% 毎回の講義に関して、manabaの「レポート」機能を使って、簡単な問いに答えてもらう。前期の講義は14回あるので、2.5x14=35とカウントする。

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

特定の教科書は使用せず、毎回、レジュメと資料を配布する。なお、自学用の参考書として、前期は『世界哲学史 I』『世界哲学史 II』(ちくま新書、2020年)を推薦する。その他の参考文献に関しては授業でその都度、指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 古代中世西洋哲学史(2)／西洋哲学史(2)

担当教員： 出村 和彦

履修年度： 2025 学期： 後期

開講曜日時限： 水2

配当年次： 1年次配当

科目ナンバー： LE-WP1-J104

登録者： admin

登録日時： 2024-11-06 07:34:2

更新者： AA2435

更新日時： 2025-01-10 17:50:5

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

自己と世界(自然・宇宙)、そしてそれらを超越し、あるいは／かつ、それらに内在する根拠について、古代ギリシア人がどのような思索を展開していったのか、また、その哲学的思索が東西のキリスト教圏においてどのように批判的に継承されていったのか？今年度の哲学史講義は、このような根本的な問いを、地理的、言語的、さらに宗教的にも異なるギリシア、ラテン、アラビア、シリアといった多様な文化圏の交流史を背景として概観しながら、そこに一貫して流れる存在観および倫理観の系譜をたどる試みとして問い直してみたい。後期はヘレニズム期の哲学諸派から説き起こし、近代を先取りした後期スコラ哲学まで、中世哲学を中心に論じる(したがって、後期の内容を十分に理解できるためには、前期の講義も受講済みであることが望ましい)。

なお、実施方法は、全て面接形式で進める。

科目目的

自己と世界(自然・宇宙)、それらを超越し、あるいは／かつ、それらに内在する根拠について、古代ギリシア人がどのような思索を展開していったのか、また、その哲学的思索が東西のキリスト教圏においてどのように批判的に継承されていったのかという根本的な問いを、具体的な哲学史的事例を詳細にたどることによって解明していくことを目的とする。

到達目標

具体的な哲学史的事例を自分なりの言葉で他者に説明できるようになり、さらに自己と世界(自然・宇宙)、それらを超越し、あるいは／かつ、それらに内在する根拠について、古代ギリシア人がどのような思索を展開していったのか、また、その哲学的思索が東西のキリスト教圏においてどのように批判的に継承されていったのかという根本的な問いに自分なりの考えがもてるようになることを目標とする。

授業計画と内容

- 実施方法は、全て対面方式で実施する。
- 第1回 インTRODクシヨン：古代から中世へ：ヘレニズムの哲学(1)エピクロス派
 - 第2回 ヘレニズムの哲学(2)ストア派
 - 第3回 ヘレニズム・ローマの哲学 後期ストア派
 - 第4回 ローマ帝国とアレクサンドリア
 - 第5回 中期プラトン主義：ユダヤ教におけるプラトン主義の受容：フィロン
 - 第6回 キリスト教の成立：教父哲学の展開
 - 第7回 新プラトン主義：プロティノス・ボルフィリオス・プロクロス
 - 第8回 デオニュシオス・アレオパギテースからエリウゲナへ
 - 第9回 アウグスティヌスの思想
 - 第10回 西欧中世の始まり：カロリングルネサンス
 - 第11回 初期スコラ哲学における神の存在証明：アンセルムス
 - 第12回 12世紀の学問：アベラルドゥス
 - 第13回 大学の成立：盛期スコラ哲学：トマス・アキナス
 - 第14回 14世紀の新たな風景：主知主義から主意主義へ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数／週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	35% 期末レポート 35
平常点	30% manabaの「小テスト」3回 10x3=30
その他	35% 毎回の講義に関して、manabaの「レポート」機能を使って、簡単な問いに答えてもらう。前期の講義は14回あるので、2.5x14=35とカウントする。

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

教科書という扱いではありませんが、以下を授業でも使用する予定です。自学用の参考にしてください。
K・リーゼンフーバー『西洋古代・中世哲学史』平凡社ライブラリー

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 倫理学概論**担当教員： 出村 和彦**

履修年度：2025 学期：通年

開講曜日時限：火2

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-PE2-J211

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:34:2

更新者：AA2435

更新日時：2025-01-11 12:52:4

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この授業では、「倫理学(あるいは道徳哲学)とは何か」という問いをめぐって、様々な観点から考察を試み、基本的な知識を習得し、主だった倫理的・道徳的な考え方を使いこなせるようになることを目指します。そのために、倫理学の歴史を古代から現代まで振り返り、規範倫理学とメタ倫理学の諸理論を主要テキストに基づいて解説していきながら、最終的には、広範な倫理学的史的パースペクティブの下に「倫理学とは何か」を概略を理解しその思考法に習熟することが目指されます。

なお、実施方法は、対面形式で進めます。

※本授業は2018年度以降入学生の教職課程(中学社会・高校公民)の選択科目です。

※2017年度入学生の教職課程(中学社会)の選択必修科目、教職課程(高校公民)の必修科目です。

科目目的

この科目は以下の3点を目的とします。

- ① 倫理学の歴史を古代から現代まで振り返り、広範な倫理学的史的パースペクティブを習得すること。
 - ② 規範倫理学とメタ倫理学の諸理論をそれぞれのテキストに基づいて理解すること。
 - ③ 以上によって習得した新たな観点から具体的な倫理学的問題にみずから取組めるようになること。
- 以上です。

到達目標

身近な家族・友人関係の問題からグローバルな地球環境や世界政治・経済の問題に至るまで、倫理的問題をはらむあらゆる出来事に、自分自身の意見が持てるようになることをめざします。そのためには、倫理学的な背景をきちんと理解・習得すると同時に、具体的な倫理的問題に関するケーススタディを通じて、倫理的に物事を読み取り・考え・表現する力を身につけてほしい。

授業計画と内容

授業は、対面形式で進めます。

<前期>

- 第1回 イントロダクション(倫理学の学び方、倫理学とは何か)、行為についての考察の視点
- 第2回 ソクラテス:よく生きること
- 第3回 倫理学とは:エートスの学としての倫理学と「人間の学としての倫理学」
- 第4回 アリストテレス(1): 目的論的倫理学 最高善としての幸福
- 第5回 アリストテレス(2): 徳(アレテー)と幸福
- 第6回 ヘレニズムの倫理:コスモポリターネスの生き方
- 第7回 行為の自発性と責任-自由と決定論、あるいは意志について:ローマストア派
- 第8回 中世キリスト教人間観:「神の像Imago Dei」としての人間、ペルソナとしての個人
- 第9回 近代道徳哲学の形成:宗教からの分離(マキャヴェリ、モンテーニュ、デカルト、パスカル)
- 第10回 ホッブズの道徳哲学-欲求と紛争-(ストア派の「衝動(ホルメー)」から「コナトゥス」へ
- 第11回 イギリスの道徳哲学:道徳感情論
- 第12回 カントの道徳哲学(1)義務論的倫理学、自律
- 第13回 カントの道徳哲学(2)定言命法
- 第14回 前期のまとめ:中間試験

<後期>

- 第1回 イントロダクション:近代現代倫理学の見取り図
- 第2回 功利主義(1)-ジェレミー・ベンサム:ベンサムの人間心理論
- 第3回 功利主義(2)-J・S・ミルの倫理学:功利性の原理
- 第4回 20世紀の倫理学(1):J・ロールズ
- 第5回 20世紀の倫理学(2):シジウィク、ムーア
- 第6回 功利主義をのりこえて-R. M. ヘア「倫理学理論と功利主義」の観点

- 第7回 アリストテレス再び
- 第8回 アンスコム: インテンションと行為論としての倫理学
- 第9回 徳倫理学(1): 善き人のあり方と倫理学
- 第10回 徳倫理学(2): 徳と規範
- 第11回 功利主義と義務論: カント再び
- 第12回 現代における功利主義と正義論の展開
- 第13回 「倫理学」とはなんだったか
- 第14回 後期のまとめ : 期末試験

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	58% 前期末と後期末にそれぞれ期末試験(記述式)を1回ずつ、各29 x 2=58%.
レポート	0%
平常点	42% 毎回の講義に関して、manabaの「レポート」機能を使って、簡単な問いに答えてもらう。講義は28回あるので、各1.5 x 28=42%.
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

特定の教科書は使用せず、毎回、レジュメと資料を配布する。参考文献に関しては授業でその都度、指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：倫理学概論(他専攻)

担当教員：尾留川 方孝

履修年度：2025 学期：通年

開講曜日時限：金4

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-PE2-J211

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:34:2

更新者：AC8022

更新日時：2024-12-18 16:21:3

授業形式

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

古代から近世にいたる日本の倫理思想について、代表的なものをとりあげ、どのような行為・行動や状況が倫理的とされていたのか、それらの根拠や背景となるのはどのような考え方なのかを学ぶ。

倫理学とは、善とはなにか、善いあるいは正しい行動や生き方はなにか、行動規範などについて、自覚的に一般性(普遍性)をもって考える学問である。善悪についてのその場限りの判断の集積でも、自分自身の倫理観に依拠して個別に善悪を論じるものでもない。

日本での倫理学は近代の西洋文明の受容によりはじまり、それ以前の日本ではこれに相当する学問は自覚的にはおこなわれていなかったとされる。「〇〇は善い」「△△するのが正しい」という倫理思想があるものの、その事実を意識的に振り返って原理や論理を考察することはなかったとされる。

しかし、これらの過去の様々な倫理思想を学ぶことで、倫理学に不可欠な、我々自身の倫理観を相対化する視点が得られるはずである。また、過去の倫理思想は現代の日本の社会にも、さまざまな形の痕跡をとどめているので、今、倫理について考えるときにも考察せねばならないものとなる。だから日本の倫理思想を学ぶ。

人は、独立した個人であると同時に、社会の影響から逃れられないので、倫理は個人と社会の両方にかかわる。近代化以前の日本では、人を社会の中で理解しようとする傾向が強く、独立した個人からはじまる考察は多くない。社会やその秩序(あるいは国家)はどうあるべきか、社会や国の制度や仕組みなどからも、倫理思想を抽出して学ぶ。

科目目的

古代から近世にいたる日本の倫理思想について、代表的なものを学び、どのような行為・行動や状況が倫理的とされていたのを把握し、さらにその根拠や背景となる考え方を理解し、そのことを通して自分自身の倫理観も、さまざまな倫理思想の一つにすぎないと相対化する視点を身に付けて、みずから倫理を考える基礎を作る。

到達目標

日本の倫理思想について、どのような行為・行動や状況が倫理的とされていたのか、代表的なものを示すことができ、さらにそれぞれのどのような背景や根拠となる考え方があるのか、概要を説明できるようになる。

授業計画と内容

前期

- 01: ガイダンス: 倫理とは? 倫理・道徳・法律・慣習
- 02: 近代以前の日本の倫理思想の傾向: 社会と個人/人に理性はあるか
- 03: 日本の倫理のはじまり: 神話での天つ罪、赤心と黒心
- 04: 近代国家での神話利用の倫理: 皇国史観
- 05: 祭祀儀礼という倫理: 祭祀制度と伊勢神宮のはじまり
- 06: 祭祀儀礼の論理: 中国の災異説(天人感応説)と人民
- 07: 儀礼による国の秩序化: 憲法十七条、喪葬儀礼
- 08: 中国での礼治と儀礼の仕組み: 劉邦の即位。凶礼や廟祭
- 09: 儀礼が倫理となる根拠: 礼楽と荀子の性悪説
- 10: 儀礼体系の日本的化による年中行事の成立: ケガレ観念成立の前提
- 11: 死との接触の意味の反転: 礼の競合からケガレ観念へ
- 12: 祭祀儀礼の延長としての仏教受容: 日本での仏教受容のはじまり
- 13: 因果を説く仏教: 『靈異記』の原理
- 14: 仏のフィギアを壊すと?: 現前を超える根拠の想定

後期

- 01: 地獄は来世か?
- 02: 仏教の基本思想: 現世否定
- 03: 仏教思想と儒教倫理の対立: 祖先祭祀と神滅論
- 04: 仏教を倫理化する: 神仏習合①猿の神と仏教者
- 05: 倫理を仏教化する: 神仏習合②大日如来と天照大神
- 06: 浄土教はどこまで現世否定するか?: 死後の儀礼による往生実現へ
- 07: 歴劫修行がもたらすもの: 私と世界のゴールとその保留
- 08: 禅宗と如来蔵: あるがまま?

- 09: 朱子学1: 理気二元論、理一分殊、性即理
- 10: 朱子学2: 格物窮理、七情と居敬。
- 11: 陽明学: 心即理、知行一致
- 12: 伊藤仁斎の古学
- 13: 荻生徂徠の古文辞学と礼楽
- 14: まとめ: 学年末テスト

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	70%	授業でとりあげた日本の倫理思想について、どのような行為・行動や状況が倫理的とされていたのかを示せるか、さらにそれぞれの背景や根拠となる考え方がそのようなものか、論述式の問題により評価する。
レポート	0%	
平常点	30%	毎回、簡単な課題を出す。授業の理解度をそれにより評価する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト:

特定のテキストは用いず、適宜レジメを配付する。

参考文献:

清水正之『日本思想全史』ちくま新書、2014年 (ISBN-10:448006804X、ISBN-13:978-4480068040)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 科学哲学研究

担当教員： 飯盛 元章

履修年度： 2025 学期： 通年

開講曜日時限： 火5

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-PE2-J213

登録者： admin

登録日時： 2024-11-06 07:34:2

更新者： AD0663

更新日時： 2025-01-11 19:06:1

授業形式

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

「時間とはなにか」と「科学的知識とはなにか」というテーマで講義をします。

前期と後期数回をかけて、「時間」という個別の概念を取り上げます。まず、時間が自然科学(特に物理学)においてどのように扱われているのかを紹介します。自然科学のなかでは、任意の時点しか存在せず、特権的な現在というものが存在しないため、「時間が過去から未来へ流れる」ということが表現できません。「時間が流れる」ということをどのように考えたら良いのか。この点について、現代の分析形而上学の議論を手がかりに考察していきます。また、その他のさまざまな哲学者が時間についてどのように考えているのかも見ていくことになります。

後期の残りの回では、そもそも科学的知識とはどのようなものなのかについて考察します。ポパーの反証主義やラトゥールのアクターネットワーク理論などを参照することによって、科学者の営みについての理解を深めることを目指します。

科目目的

この授業には、以下の目的があります。

- (1) 自然科学の見地を踏まえ、人間の生や日常の見方を相対化できるようになること。
- (2) 自然科学では語りえないもの(〈今〉や〈ここ〉など)があることを理解すること。
- (3) 自然科学そのものを相対化し、自然科学の見解には歴史的な発展があることを理解すること。

到達目標

授業で扱われる内容(時間の本質、科学的知識の本質など)について自分の言葉で説明し、それに対して自分の主張を論理的に展開できるようになること。

授業計画と内容

毎回、前回の授業で取り上げきれなかったコメントや質問について解説しながら、ゆっくりと進めていきます。わからない点や思いついたことなどは、授業中にCommentScreenを使って投稿してください。

第01回 前期の導入

第02回 時間とはなにか01—特殊相対性理論と時間

第03回 時間とはなにか02—一般相対性理論と時間

第04回 時間とはなにか03—量子論と時間

第05回 時間とはなにか04—熱力学と時間

第06回 時間とはなにか05—タイムトラベルの哲学(タイムトラベルの成立条件)

第07回 時間とはなにか06—タイムトラベルの哲学(タイムトラベルのさまざまなパラドックス)

第08回 時間とはなにか07—マクタガート、時間の非実在性

第09回 時間とはなにか08—現在主義と永久主義

第10回 時間とはなにか09—ベルクソン、持続としての時間(『意識に直接与えられたものについての試論』)

第11回 時間とはなにか10—ベルクソン、持続としての時間(ベルクソン哲学のその後の発展)

第12回 時間とはなにか11—現象学における時間(フッサール現象学の発展)

第13回 時間とはなにか12—現象学における時間(フッサールと時間)

第14回 前期の総括・前期レポートの書き方について

第15回 後期の導入

第16回 時間とはなにか13—ホワイトヘッド、生成としての時間(ホワイトヘッド形而上学入門 現実的存在・把握・合生)

第17回 時間とはなにか14—ホワイトヘッド、生成としての時間(ホワイトヘッド形而上学入門 絶えざる消滅と客体的不滅性、相対性原理)

第18回 時間とはなにか15—ホワイトヘッド、生成としての時間(ホワイトヘッドと時間)

第19回 時間とはなにか16—ハーマン、対象と時間(ハーマンvs. ホワイトヘッド、代替因果の論理)

第20回 時間とはなにか17—ハーマン、対象と時間(四方対象、ハーマンと時間)

第21回 時間とはなにか18—メイヤサー、あらゆるものを破壊しうる時間(メイヤサーと時間)

第22回 時間とはなにか19—メイヤサー、あらゆるものを破壊しうる時間(相関主義批判から絶対的偶然性へ)

第23回 時間とはなにか20—メイヤサー、あらゆるものを破壊しうる時間(帰納の問題から絶対的偶然性へ)

- 第24回 科学的知識とはなにか01—ポパーの反証主義
- 第25回 科学的知識とはなにか02—クーンのパラダイム論
- 第26回 科学的知識とはなにか03—ラトウールのアクターネットワーク理論 (アクターネットワーク理論概要、『科学がつくられているとき』)
- 第27回 科学的知識とはなにか04—ラトウールのアクターネットワーク理論 (『虚構の「近代」』、『科学論の実在—パンドラの希望』、プラズマが噴き出すとき)
- 第28回 後期の総括・後期レポートの書き方について

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	100%	2回(前期と後期)のレポート提出により判定。授業の内容を理解し、自分の主張を論理的に展開できているかを確認します。
平常点	0%	
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

原則として出席点や平常点は考慮せず、レポートのみによって評価します。ただし、それまでに話したことを前提にして授業の議論が進んでいくので、可能な限り出席することを推奨します。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

毎回、授業中にCommentScreenを使ってコメントや質問を投稿してもらいます。授業の最後には、質問をじっくりと投稿する時間を設けます。その回で回答しきれなかった質問については、次回の授業であらためてゆっくりと解説します。

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは特にありません。参考文献は授業内でその都度、配布ないし紹介します。差し当たり、以下のものを挙げておきます。

参考文献

- ・吉田伸夫『時間はどこから来て、なぜ流れるのか?—最新物理学が解く時空・宇宙・意識の「謎」』(講談社、2020年)
- ・森田邦久『時間という謎』(春秋社、2020年)
- ・飯盛元章『暗黒の形而上学—触れられない世界の哲学』(青土社、2024年)
- ・戸田山和久『科学哲学の冒険—サイエンスの目的と方法をさぐる』(NHK出版、2005年)
- ・伊勢田哲治「科学哲学」(『哲学の歴史11』中央公論新社、2007年所収)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 哲学講義(1)(11)

担当教員： 出村 和彦

履修年度： 2025 学期： 前期

開講曜日時限： 火1

配当年次： 3年次配当

科目ナンバー： LE-PE3-J301,LE-PE4-J31

登録者： admin

登録日時： 2024-11-06 07:34:2

更新者： AA2435

更新日時： 2025-01-11 13:34:1

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では、アウグスティヌスの初期のカッシキアム対話編からパウロ書簡註解を中心に、アウグスティヌス にとってギリシアローマ古典的人間論が聖書解釈を通じて、「心」を中心としたキリスト教の人間論に変容する過程を、彼の身体的表現や場所的表現を手がかりに哲学的に解明していきます。

科目目的

この講義では、以下の3点を目的とします。

- ① アウグスティヌスの初期中期作品の内容をテキストに即して正確に理解すること。
- ② 彼の思想的背景の視野に入れて、彼の「人間理解」が何であったかを理解すること。
- ③ 現代における倫理的な問題状況において、アウグスティヌスの考え方がどの程度有効に機能するのかを検証すること。

到達目標

アウグスティヌスの原初的問題のいくつかを考察を通じて、彼の哲学することの独自性を理解する。その上で、彼の哲学・人間理解が現代のさまざまな倫理的問題に対してどの程度有効であるのかを、自分なりに批判的に吟味できるようになることをこの講義の最終目標として掲げたいと思います。

授業計画と内容

1. イントロダクション「問題の所在」:アウグスティヌスと対話編・アウグスティヌスと聖書註解
2. 新約聖書の「身体」への原点:
3. カッシキアム対話編(1)
4. カッシキアム対話編(2)
5. 『自由意志』(1)
6. 『自由意志』(2)
7. その他の対話編
8. 『シンプリキアヌスへ』(1)
9. 『シンプリキアヌスへ』(2)
10. その他のパウロ註解(1)
11. その他のパウロ註解(2)
12. 『告白録』(1)
13. 『告白録』(2)
14. 総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

テキストを自分なりに読み進めることが望ましいので、毎回、指定した箇所を事前に何度も熟読し、自分なりの読書ノートを作成してから授業に臨むようにしてください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	65%	講義で取り上げた主題について、最長でも3,000字、2000字以上を目安に、小論文を提出してもらいます。
平常点	35%	毎回の講義に関して、manabaの「レポート」機能を使って、簡単な問いに答えてもらう。講義は14回あるので、2.5 x 14=35とカウント。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

教科書: 出村和彦『アウグスティヌス「心」の哲学者』岩波新書 ISBN :978-4-00-431682-4
その他、講義の中で集中して共同で検討する箇所のpdfテキストはmanabaで配布します。
その他の参考文献に関しては授業でその都度、指示します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 哲学講義(1)(11)

担当教員: 和田 有希子

履修年度: 2025 学期: 前期

開講曜日時限: 水2

配当年次: 3年次配当

科目ナンバー: LE-PE3-J301,LE-PE4-J31

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:34:2

更新者: AD1166

更新日時: 2025-01-10 12:44:5

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では、禅について多角的に検討していきます。禅は、仏教の一つの宗派ということ以上に、日本文化との関わりが指摘されたり、あるいは欧米の起業家などの精神的支柱になった経緯を持ちます。なぜ禅はそのような様々な価値を現出する「哲学」を有していたのでしょうか。本講義では、禅が日本で広く受け入れられた中世を中心に、禅の歴史的な展開とその意義を検討し、禅が持っている様々な「哲学」について考えていきたいと思えます。西洋哲学とはまた違った物の考え方に触れることになることでしょうか。

科目目的

この科目は、学生が学位授与の方針で示す「幅広い教養」「複眼的思考」を主体的に習得することを目的としています。

到達目標

この科目では、以下を到達目標とします。

- ①禅宗の展開を知ることから、思想がいかに重層的に展開するかを知ること。
- ②禅宗のもつ哲学から、多様なものの考え方の存在を知ること。
- ③既存の枠組みで物事を捉えることの限界を知り、既存の枠組みの成立過程を自覚し、そうした枠組みを超えた見方ができるようになること。

授業計画と内容

- I 禅の見方
 - 1 イントロダクション:なぜいま禅を考えるのか
 - 2 禅宗史叙述の変遷とこれまでの禅の捉えられ方
- II 日本中世禅がもたらした哲学的課題
 - 3 栄西から見直す禅
 - 4 栄西の密教思想から捉え直す禅の意義
 - 5 栄西と中国・宋代思想との関わり:栄西の禅の見直し
 - 6 栄西の戒律:「創造」される禅
 - 7 道元禅の再検討
 - 8 鎌倉中期思想界への禅のインパクト:京都東福寺開山円爾(1200~80)の到達点
 - 9 栄西から円爾へ:中国・唐末~南宋の禅の動向と鎌倉期における受容
 - 10 円爾門下の禅の展開:「平等義」という思想
 - 11 鎌倉中後期以降の禅の諸方面への影響:神道説・能楽・世界観の変化
 - 12 「純粹な」禅とは何か:瑩山紹瑾の「純一の禅」、宗峰妙超の教宗批判と禅、一休の「破戒」と禅
 - 13 禅の哲学:言葉を超えることと言葉を持つこと
 - 14 総括:禅の見直しから見えてくる禅という「哲学」

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。

・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	50% 期末に、講義で取り上げた内容に関してレポートを提出してもらいます(3000字程度)。
平常点	50% 毎回授業の最後に、リアクションペーパーを書いてもらいます。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

授業では、当方で作成したレジュメを配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 哲学講義(2)(12)

担当教員: 出村 和彦

履修年度: 2025 学期: 後期

開講曜日時限: 火1

配当年次: 3年次配当

科目ナンバー: LE-PE3-J302,LE-PE4-J31

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:34:2

更新者: AA2435

更新日時: 2025-01-11 11:45:2

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では、アウグスティヌス(354-430)の生涯を通じた真理探究、特に前半生のキリスト教に至る様々な出会いや後半生の司教としての働きを通じて見えてくるキリスト教の特徴的な観点とその後の西欧や日本のキリスト教思想に与えた影響をわかりやすく講義する。哲学と宗教との相互補完的な関係を、具体的にアウグスティヌスの生涯とその思想を通じてキリスト教の成立の場面で考察していきます。これを通じてキリスト教古代の思想哲学(教父哲学)の基礎知識を歴史的に説明していきながら解明していきます。

科目目的

アウグスティヌスの生涯とその思想を詳細にたどることで、わかったようで実はあまり知られていないキリスト教の源流、いわば根っこをしっかりと理解できるようになることを目指します。

到達目標

この講義では、キリスト教古代についての基礎的知識を習得すること、そして、特にアウグスティヌスの探究を視野に入れた西欧思想の源流と展開、さらにこれの日本を含む近世近代現代哲学の影響を理解すること。

授業計画と内容

1. イントロダクション はじめに:授業の進め方:真の宗教を求めて:アウグスティヌスの探究の人生
2. アウグスティヌスの探究とキリスト教との出会い(1):ラテン文学と修辞学の教育
3. アウグスティヌスの探究とキリスト教との出会い(2):哲学との出会い、マニ教(善悪二元論)へ
4. アウグスティヌスの探究とキリスト教の理解(1):「心」内的理解
5. アウグスティヌスの探究とキリスト教の理解(2):回心とその後の出発点
6. アウグスティヌスから学んで(1)愛の秩序『告白録』キリスト教文化の指針
7. アウグスティヌスから学んで(2)永遠と時間:神の国
8. 司教アウグスティヌスの取り組み:キリスト教徒の生活
9. アウグスティヌス時代の教会の状況(1):ドナティスト分派と教会の一致
10. アウグスティヌス時代の教会の状況(2)ペラギウス論争
11. アウグスティヌス『三位一体論』『神の国』『エンキリディオン』
12. 信仰・希望・愛 キリスト教で信仰する神は父と子と聖霊の三位一体の神である
13. 希望を示す(主の祈り):愛の掟
14. アウグスティヌスの死生観:アウグスティヌスの著作の保存と伝播と受容 まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	0%	
レポート	65%	課題を提出するので、その課題に即したレポートを期末に提出してもらう。
平常点	35%	毎回の講義に関して、manabaの「レポート」機能を使って、簡単な問いに答えてもらう。講義は14回あるので、2.5 x 14=35とカウント。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- * 授業で使用するテキスト
出村和彦『アウグスティヌス「心」の哲学者』岩波書店、2017年、岩波新書新赤版1682、ISBN978-4-00-431682-4
- * 参考文献その他資料は配布します。
- 上記テキストや講義で取り上げる箇所以外でも、アウグスティヌス『告白』I, II, III 山田晶訳(中公文庫)は各自読み進めてもらいたい。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 哲学講義(2)(12)

担当教員： 和田 有希子

履修年度： 2025 学期： 後期

開講曜日時限： 水2

配当年次： 3年次配当

科目ナンバー： LE-PE3-J302,LE-PE4-J31

登録者： admin

登録日時： 2024-11-06 07:34:2

更新者： AD1166

更新日時： 2025-01-10 12:51:4

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

前期には、主に禅の歴史的、思想的展開について検討しましたが、本講義では、西田幾多郎と旧知の仲で、互いに影響を与え合い、自らは禅を欧米に知らしめ、禅の持つ普遍性を世界にアピールした鈴木大拙(1870～1966)の著作を取り上げて、近代において禅がどのような意義を持ったのかについて考えます。鈴木大拙は、ウィリアム・ジェイムズほか欧米の思想に触れながら、当時政治的な意味合いを背景に強い力を持っていたキリスト教など一神教に対する東洋思想の特色、西洋思想と仏教との関わりなど、幅広い言説を残しています。そうした中で彼は、結果的に、近代をどう超えるか、つまりポストモダンの思想の行方を考えさせる方向性を論じています。日本から発信されたポストモダンの思想はどのようなものか、ポストモダンの哲学に必要とされる要素とは何なのか、一緒に検討していきましょう。

科目目的

この科目は、学生が学位授与の方針で示す「幅広い教養」「複眼的思考」を主体的に習得することを目的としています。

到達目標

この科目では、以下を到達目標とします。

- ①鈴木大拙がどのような人物であり、どのような著作を残したのかについて知ること。
- ②鈴木大拙が、その当時の世界に、禅を通して何を発信しようとしたのかについて知ること。
- ③鈴木大拙の言説の背景となっている諸思想がどのようなものなのかを理解すること。
- ④鈴木大拙の思想から、近代という時代が何をもたらしたのかということに自覚的になること。
- ⑤鈴木大拙の思想が、現在でも常識になっている社会システム、倫理観に対して、どのような視点を持っているかを知り、これからの哲学の行方について考えることができるようになること。

授業計画と内容

- I 大拙の出発点
 1. イントロダクション: いまなぜ鈴木大拙なのか
 2. 鈴木大拙に影響を与えた人々: 鎌倉円覚寺禅僧、今北洪川と釈宗演
- II 大拙思想が課題とするもの: 近代とは何か
 3. 1893年万国宗教会議における一神教と多神教の議論
 4. 西洋近代思想の受容と近代への批判: 『新宗教論』を読む
 5. 『大乘仏教概論』を読む(1): 西洋の学問観の批判
 6. 『大乘仏教概論』を読む(2): 近代における『大乘起信論』への注目とその意味
 7. 『日本的靈性』を読む(1): 宗教意識(靈性)重視の意味
 8. 『日本的靈性』を読む(2): 言葉を超越することと近代の見方との関係
- III 大拙思想を支える思想
 9. 神秘思想と禅: ブラバツキー神智学との関わりから
 10. 大拙の見る禅: 中国唐代～宋代禅の展開の観点から
 11. 禅はなぜ近代仏教に寄与できたか: 方便を超越する性質とその意義
- IV 大拙思想・禅とこれからの哲学
 12. 歴史をどう叙述するか: 大拙と中国歴史学者胡適との論争
 13. 近代的価値観をどう乗り越えるか: 大拙から西田幾多郎・井筒俊彦・贈与論の議論まで
 14. 総括: 大拙禅の伝播とポストモダンの哲学へ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	50% 期末に、講義で取り上げた内容に関してレポートを提出してもらいます(3000字程度)。
平常点	50% 毎回授業の最後に、リアクションペーパーを提出してもらいます。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

当方でレジュメを用意しますが、授業で使用するテキストについて、比較的入手しやすいものについて記しておきます。その他、図書館で借りることのできる必要な文献については講義内で紹介します。

《授業で使用するテキスト:参考までに》

- ・鈴木大拙著・佐々木閑訳『大乘仏教概論』(2016年 岩波文庫 青323-4)
- ・鈴木大拙著『日本的靈性』(2010年、角川ソフィア文庫)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 哲学講義(3)(13)**担当教員： 青木 滋之**

履修年度：2025 学期：前期

開講曜日時限： 木1

配当年次：3年次配当

科目ナンバー： LE-PE3-J303,LE-PE4-J31

登録者： admin

登録日時： 2024-11-06 07:34:2

更新者： AA1933

更新日時： 2025-01-16 19:23:3

授業形式**履修条件・関連科目等**

人格の同一性personal identity の問題を、哲学史(問題の発生)から現代の論争まで包括的に扱います。形而上学および認識論にまたがる話題なので、そうした関心の強い受講生であることが望ましいです。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

昨日の私と今日の私が同一の人であるのは、いかにしてでしょうか。昨日の私だけでなく、二十年前の私や、八十年後の私は、今の私と同一の人なのでしょうか。私の脳や記憶をそっくりコピーしたら、私と同一の人がたくさんコピーされるのでしょうか、あるいは、その場合「同一の」人という言い方は意味をなさなくなるのでしょうか。こうした問題群は、人格の同一性の問題the problem of personal identity と呼ばれます。この問題の発生から現代哲学での議論を、哲学的／分析的に深く立ち入っていくのが授業の大まかな流れです。

科目目的

人格同一性の問題群について、歴史的／分析的なアプローチをふまえて、立体的な理解を得ることが第一の目的。そうした理解に喚起されて、自分でこの問題を考え、周りの人にも明晰に語れるようになることが、第二の目的です。

到達目標

人格同一性の問題とは、どのような問題であるのか。この300年ほどで、どのような説が提唱され、議論され、現代に至ってきているのか。こうした背景を押さえた上で、受講生が自分の立場を明晰に語り擁護できるようになることが、最終的な目標です。

授業計画と内容

1. 授業イントロダクション、実体二元論の確立(デカルト『省察』を読む)
2. 人格同一性の問題の発生 モリニューとロックの書簡を読む
3. 人格概念の確立 ロック『人間知性論』を読む1
4. 人格概念の確立 ロック『人間知性論』を読む2
5. 最初期の議論 コウバーン『擁護』を読む
6. 記憶説への反論 バトラーとリード
7. 現代の心理説
8. 現代の心理説の問題点
9. パーフイットの思考実験1
10. パーフイットの思考実験2
11. 現代のアニマリズム1
12. 現代のアニマリズム2
13. まとめ回 レポート執筆に向けて
14. レポートのピアレビュー

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

この授業は反転授業(flipped class)で進める。
 ※日本語の翻訳がない文献もあるので、授業前の宿題で英語文献の読解を課す場合もある。

1. 授業前に、manabaから出された宿題に取り組み、
2. 授業中に、この宿題に答えるべく各グループでディスカッションを行う。
3. 授業後に、授業で得られた知見を振り返る小テストを行う。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	46% 3000字程度のレポートを課します。
平常点	54% 1. 授業前の宿題で26% 2. 授業後の小テストで28% ※3回以上の無断欠席で、「F(不可)」とします。自分で、出席回数をしっかり管理する必要があります。 ※5分以上の遅刻で、授業後の小テストの点数を減点します。(5-20分 -1点 20-30分 -2点 30分 欠席扱い)
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- ✓ 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

授業では単一のテキスト(紙媒体の本)は使用せず、一次文献、二次文献ともにmanabaの「コースコンテンツ」でPDFファイルを配布していきます。授業を行うにあたって以下の2つのものを参照していく予定ですが、他の文献についても、授業中で案内していきます。

John Locke, An Essay concerning Human Understanding, ed.by Peter H. Nidditch, Oxford: Clarendon Press, 1975
John Perry (ed.), Personal Identity (2nd edition), Berkeley: University of California Press, 2008

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

科目名: 哲学講義(3)(13)

担当教員: 瀬嶋 貞徳

履修年度: 2025 学期: 前期

開講曜日時限: 月3

配当年次: 3年次配当

科目ナンバー: LE-PE3-J303,LE-PE4-J31

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:34:3

更新者: AB4446

更新日時: 2024-12-04 15:37:4

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。具体的にはムーアの論文を日本語で読み、その内容を説明していきます。

履修条件・関連科目等

哲学講義(4)(14)

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

西洋哲学において「実在」とは何であったのかについて考えるとともに「知覚」「観念」についての理解を深めていきます。参加者にも意見を求めます。

科目目的

この講義の目的は以下のとおりです。

- ①「実在」とは何であるのかの基本的理解。
- ②ムーアの実在論における「実在」と「観念」の理解。
- ③哲学を専門に勉強する意義について考えることができること。

到達目標

哲学の論文を読むための基礎的な能力を得ること。

授業計画と内容

1. ガイダンス
2. 近代観念論とは何か
3. 観念論的論証の根拠
4. 根拠「存在するとは知覚されることである」
5. 「知覚される」とは何か
6. 「実在」と「知覚される」の関係
7. 総合命題としての根拠命題
8. 分析命題としての根拠命題
9. 「観念」とは何か
10. 「意識」と「対象」
11. 「対象」の内容説批判
12. 「知覚」「観念」の構造
13. 観念論の論駁
14. 総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	50% 前期末にレポート課題を課します。
平常点	50% 出席、積極的に議論に参加するかどうかを評価します。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

参考資料については、manaba 上で公開します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 哲学講義(4)(14)**担当教員： 青木 滋之**

履修年度：2025 学期：後期

開講曜日時限：木1

配当年次：3年次配当

科目ナンバー：LE-PE3-J304,LE-PE4-J31

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:34:3

更新者：AA1933

更新日時：2025-01-16 19:37:2

授業形式**履修条件・関連科目等**

第4回から第14回授業まで、グループ発表を行うため、もし仮に履修者が多すぎる場合は抽選を行う。ただし、この授業に参加する特段の理由や熱意がある場合は考慮します。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

近現代社会の基礎となる啓蒙主義の思想を、ヨーロッパでの興隆から日本への移植伝播という二つのフェーズで見えていきます。担当教員の専門が西洋哲学なので、幕末明治にかけての外国人の著作に注目していくのが特徴です。

科目目的

- 以下のような目的を設定します。
1. 近現代日本社会の基礎となる、ヨーロッパでの啓蒙主義の興りや流れを説明できる。
 2. 欧米の啓蒙主義が、お雇い外国人／日本人によってどのように移植／受容されていったのかを説明できる。
 3. 以上の作業を通じて、「日本で西洋哲学(学問)を学ぶことは如何なることか」を考え、日本人の自己認識を深める。
 4. グループ発表を通じて、役割分担やプレゼンテーションを行うことができる。

到達目標

啓蒙主義がどのようにして興り、それが日本でどのように伝播し受容されたのかを、海外の人にも説明できる(くらい詳しくなる)

授業計画と内容

1. なぜ啓蒙主義が問題になるのか、その興り
2. イギリス、フランスの啓蒙主義
3. スコットランド、ドイツの啓蒙主義
4. 長崎の海軍伝習所と医学伝習所 カッテンディーケ『長崎海軍伝習所の日々』;長与専斎『松香私志』
5. 生物学 モース『日本その日その日』
6. 工学 ダイアー『大日本』
7. 医学 ベルツ『ベルツの日記』
8. 哲学 ケーベル『ケーベル博士随筆集』
9. 美学 フェノロサ『フェノロサ美術論集』
10. 外交官の視点から アーネスト・サトウ『一外交官の見た明治維新』
11. 旅行者の視点から イザベラ・バード『日本紀行』
12. 哲学という造語 西周『百学連環』
13. 明六社、福沢諭吉『学問のすすめ』
14. 近代の超克

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

第4回から第14回授業まで、グループでの発表を行う。構成や内容、表現といった項目から総合的に評価し、グループの点数＝グループ各員の点数とする。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	0%
レポート	42% 3000字程度のレポートを課します。
平常点	58% 1. 授業内でのグループ発表で30% 2. 授業後の小テストで28% ※3回以上の無断欠席、あるいはグループ発表時の無断欠席で、「F(不可)」とします。自分で、出席回数をしっかり管理する必要があります。 ※5分以上の遅刻で、授業後の小テストの点数を減点します。(5-20分 -1点 20-30分 -2点 30-分 欠席扱い)
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- ✓ 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
 - ✓ ディスカッション、ディベート
 - ✓ グループワーク
 - ✓ プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

参考書:
佐伯彰一・芳賀徹編『外国人による日本論の名著』, 中公新書, 1987

授業では単一のテキスト(紙媒体の本)は使用せず、各回の一次文献、二次文献ともにmanabaの「コースコンテンツ」でPDFファイルを配布していきます。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 哲学講義(4)(14)

担当教員: 瀬嶋 貞徳

履修年度: 2025 学期: 後期

開講曜日時限: 月3

配当年次: 3年次配当

科目ナンバー: LE-PE3-J304,LE-PE4-J31

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:34:3

更新者: AB4446

更新日時: 2024-12-04 15:36:0

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。具体的にはムーアの論文を日本語で読み、その内容を説明していきます。

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

ムーアの倫理思想について講義します。

科目目的

この講義の目的は以下のとおりです。

- ①西洋における倫理思想の基本的理解。
- ②「価値」「倫理」について自ら考え、これからの人生に活かすことが出来る。

到達目標

「価値」「倫理」について基礎的な理解を得ること。

授業計画と内容

1. ガイダンス
2. 三つの価値概念
3. 主観的価値
4. 客観性と内在性
5. 内在性とは何か
6. 「内在的本性における差異」
7. 数的差異と質的差異
8. 不可能性と必然性
9. 事実に差異と因果的差異
10. 無条件的差異
11. 外面的関係
12. 自然主義の二つの型
13. 無条件的必然性の困難
14. 総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	0%
レポート	50% 後期末にレポート課題を課します。
平常点	50% 出席、積極的に議論に参加するかどうかを評価します。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
 ディスカッション、ディベート
 グループワーク
 プレゼンテーション
 実習、フィールドワーク
 その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
 タブレット端末
 その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

講義内で適宜、参考文献を提示します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 哲学講義(7)(17)

担当教員： 大川 真

履修年度： 2025 学期： 前期

開講曜日時限： 金1

配当年次： 3年次配当

科目ナンバー： LE-PE3-J307,LE-PE4-J31

登録者： admin

登録日時： 2024-11-06 07:34:3

更新者： AA1734

更新日時： 2025-01-15 10:58:1

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等

この授業は対面形式によって行われる。

- 1, 授業では最後の20分間でオンラインレポートを提出してもらうので、ノートパソコンやタブレットパソコンなどを教室に持参すること。
- 2, 授業では冒頭で数名のレポートを取り上げて私からリプライを行う。
- 3, 授業中に数名を指名して、資料を読み上げてもらったり、質問に答えてもらう。

受講に際しては以上の点をすべて了承すること。

なおこの授業は後期に開講される哲学講義(8)(18)と連続するので、継続して受講することが望ましい。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

【政治思想入門】

政治思想、政治哲学、日本思想史の基礎的なスキルを、テキストの精読によって養成することを目指します。

具体的には、戦後民主主義を代表する政治学者・丸山眞男の論文を精読していきます。丸山の思想像、研究史上の意義を明らかにするとともに、彼独特の鋭い問題史的な論述も学んでいきたいと思います。

科目目的

以下のことを目標に、戦後の代表的な知識人である丸山眞男の論文を輪読していきます。

- 1, 日本政治思想史の論文に慣れる。
- 2, 丸山が引用した原資料を正確に読み込み、彼の解釈の妥当性を検討できるようになる。
- 3, 丸山が置かれた時代状況を念頭に、彼が時事にどのようにコミットしたのか、その問題史的な視座を論文から把握する。

到達目標

戦前の政治体制であるファシズムやまた戦後の民主主義について、正確な定義を各自が行えるようになること。また【「自然」と「作為」】、「執拗低音」といった丸山のシェーマについて、深い理解を行えるようになること。また丸山が影響を受けたカール・シュミット、ハロルド・ラスキなどの思想についても一定の知識を持つこと。

授業計画と内容

- 第1回 映像から見る丸山眞男、戦後史 前半部
- 第2回 映像から見る丸山眞男、戦後史 後半部、およびディスカッション
- 第3回 丸山眞男「政治の世界」前半部
- 第4回 丸山眞男「政治の世界」中間部
- 第5回 丸山眞男「政治の世界」後半部
- 第6回 丸山眞男「日本ファシズムの思想と行動」前半部
- 第7回 丸山眞男「日本ファシズムの思想と行動」中間部
- 第8回 丸山眞男「日本ファシズムの思想と行動」後半部
- 第9回 丸山眞男「超国家主義の論理と心理」前半部
- 第10回 丸山眞男「超国家主義の論理と心理」中間部
- 第11回 丸山眞男「超国家主義の論理と心理」後半部
- 第12回 丸山眞男「現実主義の陥穽」
- 第13回 丸山眞男「現代における態度決定」
- 第14回 丸山眞男「肉体文学から肉体政治まで」

※進み具合によって授業内容に多少の変更が生じる可能性があります

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	0%
平常点	100% 毎回の小レポート100%
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

授業では最後の20分間でオンラインレポートを提出してもらうので、ノートパソコンやタブレットパソコンなどを教室に持参すること。また前期後期それぞれ5回以上の欠席があった場合には、その時点で単位認定はできない。また遅延証明等のない大幅な遅刻(おおよそ授業開始から20分以上経過の入室)は平常点の大幅な減点(10点換算で3点減点)を行う。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

質問などはmanabaの「個別指導」で受け付けます。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

本学で契約しているジャパンナレッジ等の電子事典を使って、その場で調査します。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは、授業で扱う範囲を、manaba等でそのつど配布します。
参考文献は、授業で指示します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 哲学講義(8)(18)

担当教員： 大川 真

履修年度： 2025 学期： 後期

開講曜日時限： 金1

配当年次： 3年次配当

科目ナンバー： LE-PE3-J308,LE-PE4-J31

登録者： admin

登録日時： 2024-11-06 07:34:3

更新者： AA1734

更新日時： 2025-01-15 11:16:0

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等

この授業は対面形式によって行われる。

1, 授業では最後の20分間でオンラインレポートを提出してもらうので、ノートパソコンやタブレットパソコンなどを教室に持参すること。

2, 授業では冒頭で数名のレポートを取り上げて私からリプライを行う。

3, 授業中に数名を指名して、資料を読み上げてもらったり、質問に答えてもらう。

受講に際しては以上の点をすべて了承すること。

なおこの授業は前期に開講される哲学講義(7)(17)と連続するので、継続して受講することが望ましい。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

【政治思想入門】

政治思想、政治哲学、日本思想史の基礎的なスキルを、テキストの精読によって養成することを目指します。

具体的には、戦後民主主義を代表する政治学者・丸山眞男の論文を精読していきます。丸山の世界観、研究史上の意義を明らかにするとともに、彼独特の鋭い問題史的な論述も学んでいきたいと思ひます。

科目目的

以下のことを目標に、戦後の代表的な知識人である丸山眞男の論文を輪読していきます。

- 1, 日本政治思想史の論文に慣れる。
- 2, 丸山が引用した原資料を正確に読み込み、彼の解釈の妥当性を検討できるようになる。
- 3, 丸山が置かれた時代状況を念頭に、彼が時事にどのようにコミットしたのか、その問題史的な視座を論文から把握する。

到達目標

戦前の政治体制であるファシズムやまた戦後の民主主義について、正確な定義を各自が行えるようになること。また【「自然」と「作為」】、「執拗低音」といった丸山のシェーマについて、深い理解を行えるようになること。また丸山が影響を受けたカール・シュミット、ハロルド・ラスキなどの思想についても一定の知識を持つこと。

授業計画と内容

- 第1回 第二次世界大戦後の思想状況の概説—マッカーシズムを中心に—
- 第2回 丸山眞男「ラスキのロシア革命観とその推移」
- 第3回 丸山眞男「スターリン批判」における政治の論理
- 第4回 丸山眞男「政治権力の諸問題」前半部
- 第5回 丸山眞男「政治権力の諸問題」後半部
- 第6回 丸山眞男「忠誠と反逆」前半部
- 第7回 丸山眞男「忠誠と反逆」中間部
- 第8回 丸山眞男「忠誠と反逆」後半部
- 第9回 丸山眞男「近代日本思想史における国家理性の問題」前半部
- 第10回 丸山眞男「近代日本思想史における国家理性の問題」中間部
- 第11回 丸山眞男「近代日本思想史における国家理性の問題」後半部
- 第12回 丸山眞男「歴史意識の「古層」」前半部
- 第13回 丸山眞男「歴史意識の「古層」」中間部
- 第14回 丸山眞男「歴史意識の「古層」」後半部

※進み具合によって授業内容に多少の変更が生じる可能性があります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

配布するプリントを、授業前に一通り読んでおくこと。また授業後には、授業で割愛した部分について、参考文献によって補うこと。神話で

用いられている特徴的な表現や事物の名前などは、各種辞書を用いて理解を深めること。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	0%
平常点	100% 毎回の小レポート100%
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

授業では最後の20分間でオンラインレポートを提出してもらうので、ノートパソコンやタブレットパソコンなどを教室に持参すること。また前期後期それぞれ5回以上の欠席があった場合には、その時点で単位認定はできない。また遅延証明等のない大幅な遅刻(おおよそ授業開始から20分以上経過の入室)は平常点の大幅な減点(10点換算で3点減点)を行う。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

本学で契約しているジャパンナレッジ等の電子事典を使って、その場で調査します。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは、授業で扱う範囲を、manaba 等でそのつど配布します。
参考文献は、授業で指示します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

